

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人 陽翔会		
事業所名	グループホーム ひぎり（東 西 ユニット合同）		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802-16		
自己評価作成日	平成24年2月17日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295400010&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、入居者様及びご家族様が安心して生活を送っていただく事が出来るよう、個々のニーズに合わせた支援を常に心がけております。具体的には日々のケアの中で気付いた事や、アセスメントしていく中で分析し、「なぜ？」そのような行動をされるのか、また、その方の「良い面」にも注目し、「工夫するケア」を行うようにしています。

ご家族様においては、面会時や電話連絡等において日々の状態や現在の状況をお伝えし、共有できるよう努めております。また、気楽に面会に来ていただけるよう心がけております。

日々の活動の中で外出・買い物・外食・散歩等ができるだけ行い、また、ボランティアの皆様の受け入れを積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大井川鉄道の沿線にほど近く国道1号バイパスが東西に貫く住宅街に位置している。近くに「日を限って祈願すると成就する」といわれる霊験あらたかな日切地藏尊があり、施設の名前の由来にもなっている。「利用者に生活の実感を絶えず感じてほしい」という想いは日々の暮らしの中で食事の支度、配膳や食器洗い、洗濯物たたみ、掃除、縫い物と、人それぞれに役割を担わせる形で現れている。緊急性が低い場合でも電話報告したり、面会時には会話をもつよう心掛け、また「ひぎり新聞」でも利用者の状況を伝えるなど、家族の理解と協力が得られるようハウレンソウに努めている。また、近年では利用者の話をよく聞いてくれる傾聴ボランティアの力添えも大きくなり、事業所にとって心強い存在となっているという。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人の入居者がその人らしく生活できるように取り組んでいる。	開所以来の理念である「その人らしく」は、「一人ひとりに合わせたケアを」の職員倫理のもと、全体会議の中で事例報告を中心に話し合われている。話し合いを通じ職員間で浸透していて、結果はケアプランに反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や買い物、美容院飲食店を利用し、地域とのつながりを持てるようにしている。	自治会には加入している。回覧は廻ってこないが、地域情報は近所が行事毎に声かけをしてくれ、下水掃除などにも参加している。演奏や年末のそばうちボランティアの訪問もある。毎月恒例の傾聴ボランティアは利用者の話をよく聞いてくれるとのことで大好評である。主催した夏祭りの納涼祭には地元から10名程の参加を見、地域の一員としての繋がりが覗えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年3月に認知症に関する講演会を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議をおこなっている。	2ヶ月に1度開催され、行政、包括、町内会区長、町内会組長、自主防災会長、家族の参加がある。会議からは地域の情報や避難路に関しての意見ももらえ、事業所での防災訓練の中でも活かされている。運営推進会議議事録も作成しサービス向上に繋げている。	運営推進会議に参加されていない家族にも議事録が配布され、情報の共有化が図られることを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、お互いの情報を共有し関係づくりを行っている。	行政の運営推進会議への参加は毎回あり、介護相談員の訪問も受け入れている。認知症に関する講演会を行政との協力して開催し、50名もの参加を得た会合になり盛会であった。この取組により行政との信頼関係がさらに高まったと管理者は確信している。	運営推進会議の議事録を行政に届け、連携がより密になることを期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を極力しない、という意識を持ち支援している。	「身体拘束ゼロ宣言」を行っていて、入口の施錠は行っていない。身体拘束に係る同意書とマニュアルは整っているが、使用の機会はない。外部研修にも2名の職員を参加させ、全体会議で話し合っている。また、話し合いを通じて何がスピーチロックにあたるのかなどを振り返り、ケアに反映させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々努めている。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱の設置や、面会時に要望を聞くようにしている。	意見箱からの意見は未だなく、直に家族から意見を聞きたく家族会を定期的に毎年開催している。また、「ひざり新聞」に家族への伝言欄を設け、相互理解に繋げている。「来客用駐車場の確保を」との家族意見から改善に取組、面会に来やすくなったとの意見も寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接時や全体会議等において機会を設けている。	全体会議や、各ユニットごとの会議も月に1度ある。会議ではテーマを決めた勉強会も行われ、職員の提案へと繋がっている。個人面談は年2回行われ、日々のケアに対する自己評価をベースとして、職員の本音を聞くことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接などで職員の意見を聞く機会を設け、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議での研究発表や外部講師による講義を行っている。外部研修への参加もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ではないが、外部の研修にも積極的に参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時において出来る限り話を聞き、こちらでの生活の様子をお伝えすることで、家族との信頼関係が築ける様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から得た生活歴やご本人から話を聞き、必要とするサービスを見極め、職員間で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場になり、支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡等で話し合い、共に支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より聞いた情報を元に職員間でも共有し、日常会話にも取り入れるようにしている。	親戚や友人の訪問も頻繁にある。近所の店の利用も行っていて、なかでも美容院に行く頻度は高い。菜園の手入れをしたり、敷地内のさくらんぼ取りを楽しみにしている利用者もいる。職員から利用者が針仕事をたのまれている光景も視認できた。金谷茶まつりにむけて金谷音頭を皆で踊っている姿は印象的であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズにいくよう、職員が間に入ったり孤立してしまった時には寄り添うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談しやすいよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より聞いたり、ご本人様と生活していく中で、意向を把握するようにしている。	センター方式をアレンジしたシートに基づいて聞き取っている。家族や面会に来る友人からも生活歴などの情報を集め、個人生活記録に行動を記録して意向の把握に努めている。実践者研修に参加した職員からの口伝を受け、同研修内容を職員間で共有していることも実践に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や以前の利用先より情報を得て、馴染みの暮らしが出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、申し送り等でも職員間で共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努めている。	担当制のもと、管理者も交え各ユニット会議で話し合っている。介護計画の大きな見直しは認定期間に合わせた形で行われているが、利用者の日々の状態の変化に即応して細部の話し合いが随時行われ見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、職員間で共有しているが、介護計画の見直しについても努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じ、かかりつけ医から適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医はあるが、殆どどの利用者は家族の付き添いによる以前からのかかりつけ医受診である。必要に応じてバイタルなどの個人記録のコピーを持参し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族が難しいという場合は職員が受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、日常の細かな情報をこまめに主治医へ連絡・相談し、適切な医療を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族ともよく話し合い、行っている。	口から食べられることをめやすに「できること」「できないこと」を契約時に理解していただき、その後も重複説明がなされている。看取りの実績は現在ないが、急変時の対応はフローチャートに示され、職員が共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や、運営推進会議において地域の方の関係を築くようにしている。	夜間想定で1回行っている。さらに1回予定していた訓練はスプリンクラー設置工事時期と重なり未達成である。早い機会に次の訓練を計画するつもりである。地区の防災訓練には職員が参加したが、事業所の訓練には地域住民の参加が得られなかった。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意し、対応している。	接遇研修で高齢者への接し方を勉強している。全体会議で自己評価し、馴れ合いを省みている。排泄での声かけにはトイレという名詞を出さずに誘導する工夫がなされている。職員同士の業務連絡などは利用者への配慮から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り寄り添う事で、ご本人の思いを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ1人1人のペースに合わせ過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや得意とする事をしていただき、食事が楽しみとなるよう支援している。	週5日は調理師が料理を提供していて、利用者から希望も聞き取りメニューに加えている。訪問調査時には、いつもと変わらぬであろう配膳・下膳・食器洗いなどをする利用者の姿を視認できた。週1回は利用者参加型のおやつがあり、バレンタインデーに作ったイチゴ大福は大好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや行動を良くみて1人1人に合わせた排泄ケアをしている。	自立支援のため排泄パターンを把握していて、日中は布パンの利用者が4割程いる。夜間は布パン+パットでの対応に努力をしている。排泄物チェックでは、異変が見て取れた場合はデジカメで撮影し、医師の指示を仰ぐなど健康面にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援している。	希望があれば毎日入浴も可能であるが、清潔保持のめやすとしては3日に一度としている。入浴希望を聞いたり、入浴暦を調べて誘導したりして取り組んでいる。マンツーマン介助での入浴であり、水虫予防の足拭きタオルは個々に用意されている。全身観察での異常発見時にはデジカメで保存し、医師に情報提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族に聞いた情報を共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食、買い物など気分転換ができるよう、支援している。	好天時には毎日でも施設周辺を散歩できる支援をしている。近場のドライブで、大井神社への初詣もした。ラーメンなどの外食や職員の買い物に同行しドライブを楽しむ利用者もいる。市内の「お茶カフェ」は好評で、よく出かけ、店とはなじみになっている。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努めている。	テーブルにある早咲きの桜が、春の季節を先取りしている。居間、廊下などの共用空間にはクッション性のタイルカーペットが敷かれ、利用者の転倒時には極めてダメージが少なく安心して繋がっている。乾燥時には濡れタオルなどで湿度調節を行い、温湿度計も設置されている。利用者の切り絵作品は雰囲気作りの一コマになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り使い慣れたものを持って来ていただくようお願いしている。	換気は朝の掃除とともに行い、掃除機がけを手伝う利用者もいる。居室内もタイルカーペットが敷かれ、その上にベッドあるいはマット型の畳に布団がセットされている。各室内備え付けトイレはその便利とともに、感染症の伝播が防がれる効果がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の方が安全に生活して頂ける様、どうしたら出来るかを職員間で共有し支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき管理者と職員で共有し、努力している。	開所以来の理念である「その人らしく」は、「一人ひとりに合わせたケアを」の職員倫理のもと、全体会議の中で事例報告を中心に話し合われている。話し合いを通じ職員間で浸透していて、結果はケアプランに反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の散歩、外出などで地域の交流が持てるよう支援している。、	自治会には加入している。回覧は廻ってこないが、地域情報は近所が行事毎に声かけをしてくれ、下水掃除などにも参加している。演奏や年末のそばうちボランティアの訪問もある。毎月恒例の傾聴ボランティアは利用者の話をよく聞いてくれるとのことで大好評である。主催した夏祭りの納涼祭には地元から10名程の参加を見、地域の一人としての繋がりが覗えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度の運営推進会議の場で、自治会の方中心に行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している。	2ヶ月に1度開催され、行政、包括、町内会区長、町内会組長、自主防災会長、家族の参加がある。会議からは地域の情報や避難路に関しての意見ももらえ、事業所での防災訓練の中でも活かされている。運営推進会議議事録も作成しサービス向上に繋げている。	運営推進会議に参加されていない家族にも議事録が配布され、情報の共有化が図られることを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おもに運営推進会議で取り組んでいる。	行政の運営推進会議への参加は毎回あり、介護相談員の訪問も受け入れている。認知症に関する講演会を行政との協力して開催し、50名もの参加を得た会合になり盛会であった。この取組により行政との信頼関係がさらに高まったと管理者は確信している。	運営推進会議の議事録を行政に届け、連携がより密になることを期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」を行っていて、入口の施錠は行っていない。身体拘束に係る同意書とマニュアルは整っているが、使用の機会はない。外部研修にも2名の職員を参加させ、全体会議で話し合っている。また、話し合いを通じて何がスピーチロックにあたるのかなどを振り返り、ケアに反映させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や面会者の意見を記入いただけるよう、玄関にご意見用紙を設けている。	意見箱からの意見は未だなく、直に家族から意見を聞きたく家族会を定期的に毎年開催している。また、「ひざり新聞」に家族への伝言欄を設け、相互理解に繋げている。「来客用駐車場の確保を」との家族意見から改善に取組、面会に来やすくなったとの意見も寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接や全体会議で機会を設けている。	全体会議や、各ユニットごとの会議も月に1度ある。会議ではテーマを決めた勉強会も行われ、職員の提案へと繋がっている。個人面談は年2回行われ、日々のケアに対する自己評価をベースとして、職員の本音を聞くことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が研修・講義を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価や施設内の研修によって取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族やご本人より可能な限り要望などをお聞きし、お互いに安心出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時は話を聞いたり、施設での生活を伝え、良い信頼関係が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人より得た情報を元にユニット会議や担当者会議で話し合いをするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしているような関係づくりになるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで十分な話し合いを持ち、共に支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は居室などでゆっくり過ごして頂けるよう努めている。また、可能な限り馴染みの方に来ていただける様支援させていただいている。	親戚や友人の訪問も頻繁にある。近所の店の利用も行っていて、なかでも美容院に行く頻度は高い。菜園の手入れをしたり、敷地内のさくらんぼ取りを楽しみにしている利用者もいる。職員から利用者が針仕事をたのまれている光景も視認できた。金谷茶まつりにむけて金谷音頭を皆で踊っている姿は印象的であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が円滑にいくよう配慮している。又、孤立しないよう席を移動したり、寄り添う事で防ぐようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があれば、出来る範囲で支援していくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時、ご家族からお聴きしたり職員間で話し合い、より良い暮らしをしていただけ様努めている。	センター方式をアレンジしたシートに基づいて聞き取っている。家族や面会に来る友人からも生活歴などの情報を集め、個人生活記録に行動を記録して意向の把握に努めている。実践者研修に参加した職員からの口伝を受け、同研修内容を職員間で共有していることも実践に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにもとづき、生活歴などで細かくお聞きし、職員間で共有していく中で、生活支援の中で役立てる世にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に残し、職員間で申し送りをしていく中で細かい情報も伝達していけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議で各担当より課題を取り上げ、話し合いをおこない、ケアに反映させている。	担当制のもと、管理者も交え各ユニット会議で話し合っている。介護計画の大きな見直しは認定期間に合わせた形で行われているが、利用者の日々の状態の変化に即応して細部の話し合いが随時行われ見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、職員間で共有しているが介護計画の見直しに努めるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と十分な話し合いを持ち、お互いに納得の上支援していくように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年より月1回傾聴ボランティアの方に来ていただくようにしている。また地元の方々のボランティア訪問もお願いしていく中で暮らしを楽しんでいただけているようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じ、かかりつけ医を利用できるよう支援している。	協力医はあるが、殆どどの利用者は家族の付き添いによる以前からのかかりつけ医受診である。必要に応じてバイタルなどの個人記録のコピーを持参し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族が難しいという場合は職員が受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との相談の上、今後の生活についての話し合いを行っていく中で、出来る限りの支援をしていけるよう努めている。	口から食べられることをめやすに「できること」「できないこと」を契約時に理解していただき、その後も重複説明がなされている。看取りの実績は現在ないが、急変時の対応はフローチャートに示され、職員が共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにそって行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方とは運営推進会議の際に情報交換を行い、非常時にはマニュアルに沿って行動できるよう努めている。	夜間想定で1回行っている。さらに1回予定していた訓練はスプリンクラー設置工事時期と重なり未達成である。早い機会に次の訓練を計画するつもりである。地区の防災訓練には職員が参加したが、事業所の訓練には地域住民の参加が得られなかった。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で常に注意するようにしている。	接遇研修で高齢者への接し方を勉強している。全体会議で自己評価し、馴れ合いを省みている。排泄での声かけにはトイレという名詞を出さずに誘導する工夫がなされている。職員同士の業務連絡などは利用者への配慮から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とはじっくり話を聞くように心がけ、ご家族からも話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿えるよう職員同注意するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で過ごされていた時の様子をご家族に聞くなど、その方らしい身だしなみが自然にできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人得意とする事を知り、役割を感じていただけるように支援している。	週5日は調理師が料理を提供していて、利用者から希望も聞取りメニューに加えている。訪問調査時には、いつもと変わらぬであろう配膳・下膳・食器洗いなどをする利用者の姿を視認できた。週1回は利用者参加型のおやつがあり、バレンタインデーに作ったイチゴ大福は大好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をしていく事で職員間での情報共有を行い、声かけなども押しつけにならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な入居者については個々に合わせたケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認し、1人1人に合わせた支援が出来るようにしている。また、職員間で話し合う中でより心地良い排泄ができるように努めている。	自立支援のため排泄パターンを把握していて、日中は布パンの利用者が4割程いる。夜間は布パン+パットでの対応に努力をしている。排泄物チェックでは、異変が見て取れた場合はデジカメで撮影し、医師の指示を仰ぐなど健康面にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある入居者についてはどくだみ茶やせんな茶などを取り入れる世にしている。また、家事や体操など身体を動かす事で便秘の解消につながるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿い入浴ができるよう対応している。	希望があれば毎日入浴も可能であるが、清潔保持のためめやすとしては3日に一度としている。入浴希望を聞いたり、入浴暦を調べて誘導したりして取り組んでいる。マンツーマン介助での入浴であり、水虫予防の足拭きタオルは個々に用意されている。全身観察での異常発見時にはデジカメで保存し、医師に情報提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居になる前の習慣などご本人やご家族に聞き、安心出来る環境をつくるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご本人よりお聞きしたアセスメントの情報を元に支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や体調を考慮し、出来る限り外出し気分転換が出来るようにしている。	好天時には毎日でも施設周辺を散歩できる支援をしている。近場のドライブで、大井神社への初詣もした。ラーメンなどの外食や職員の買い物に同行しドライブを楽しむ利用者もいる。市内の「お茶カフェ」は好評で、よく出かけ、店とはなじみになっている。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、必要に応じてご本人から支払いができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要な時には行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激が無いようユニット内を観察する事で注意するようにしている。一緒に掲示したり、花や飾り物で季節感を感じていただけるようにしている。	テーブルにある早咲きの桜が、春の季節を先取りしている。居間、廊下などの共用空間にはクッション性のタイルカーペットが敷かれ、利用者の転倒時には極めてダメージが少なく安心に繋がっている。乾燥時には濡れタオルなどで湿度調節を行い、温湿度計も設置されている。利用者の切り絵作品は雰囲気作りの一コマになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースを作り、少人数で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけご本人が使用されていたものを持って来ていただき、見慣れたものがある中で安心して過ごせるよう工夫している。	換気は朝の掃除とともにを行い、掃除機がけを手伝う利用者もいる。居室内もタイルカーペットが敷かれ、その上にベッドあるいはマット型の畳に布団がセットされている。各室内備え付けトイレはその便利性ととも、感染症の伝播が防がれる効果がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人どう支援したら出来るかという事を常に意識し、その方に合った自立した生活が出来るよう職員間で考えるようにしている。		